

もものくいんぼう すけちびより

第49回

小説の舞台の 深く美しい場所へ

先日、雪解けまぢかな時期、仕事があり美深町へはじめて行った。美深町は村上春樹の小説「羊をめぐる冒険」のモデルになった場所と言われている。駅前から予約しておいたデマンドバスに乗り込み取材先へ。

目的地に向かう道は緩やかなカーブが続く。土地勘のない道に行くのはいつも楽しい。現地の方々には特に魅力的ではないのかもしれないことが、外からやって来た人にはすごく新鮮に映るのである。少し前にアウトドア関係の人も「何も無いことが価値になると思う。例えば人が少ない、建物が少ない、あるのは雄大な自然のみだけど、それが一番の魅力だと思う」と話していた。

今、目にしている風景はまさしくそのような場所だ。人や物に溢れた町で生活していると、シンプルに自然に囲まれながら自分と静かに向き合うように過ごすのは、とても贅沢なように思う。移住する人たちはそんな場所に魅力を感じてやって来るのではないだろうか？そして、これからの旅の選択肢になるような気がする。

そんなことを考えているうちにデマンドバスは目的地に到着した。農場を見学した後、レストランの取材へと再び駅近に移動した。そこでランチをいただくことになり、地元産の羊のジンギスカンを食べ、地元のクラフトビールで喉を潤した。村上春樹もこのとびきり美味しいジンギスカンを食べたのだろうか？きっと食べたに違いない。などと想像しながら舌鼓を打った。

ところで何も無いと言われているけど、北海道はどこに行っても美味しい食べ物が溢れている。食が豊かであるということは何よりも魅力的である。



すずき もも

イラストレーター・絵本作家／元スローフードさっぽろ事務局長

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」（アリス館）「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ？くだもの」（アリス館）がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。